



## 桑山からのメッセージ

歳を重ねるごとに、涙もろくなってきました。ドラマや映画、子ども関係のニュースなど感情移入して、すぐ涙が出ます。でも、「悔し泣き」をしたのは幼いころを除けば、1度だけかなと思います。

営業職として社会人1年目をスタートしたばかりのとき。研修の配属として、和歌山県にある営業所に配属されました。縁もゆかりもない土地、同期はおらず、1人の配属。最初から不安がありました。案の定、社会の壁にぶつかりました。電話対応や、営業のまわり方など、なかなかうまくいかない日々。そして、この研修の最後に、1年目の同期が集まり、営業のロールプレイをたくさんの上司の前で披露する日が設定されていました。そのため、毎晩のように通常の仕事を終えてから、営業所の上司や先輩方に指導をしていただきました。自分の中では、ある程度うまく説明しているつもりでしたが、「説明しているだけ」とダメ出しをされる毎日でした。その言葉の意味が理解できず、この夜のロープレが嫌で嫌で仕方ありませんでした。

本番の1週間ほど前だったと思いますが、その日は雨が降っており、自転車で営業周りをしていたので、疲労感もあり、気持ちも沈んだ中で、ロープレ練習、いつものように上司からは自分には理解のできないダメ出しをされました。その帰り道、真っ暗な雨の中を一人で歩いていると、自分の中で気持ちが切れた感覚がして、自然と涙があふれてきました。悔しさや、孤独感、自分への失望・・・多くの感情がいきり混じったのだと思います。「もう辞めようか」とも思いました。そんなギリギリの気持ちの中で、つなぎとめてくれたのは内容を覚えてないくらいたいわいもない同期からのメールでした。ただ、「仲間」とのつながりを感じたんだと思います。同期とは毎日のように連絡を取り合っていて愚痴大会、彼女(今の妻です)や地元、大学の友だちも休みの日に和歌山まで来てくれました。そういった心を許せる存在が、前を向かせてくれました。営業として自立した頃には、上司から言われていたダメ出しの意味を深く理解することができ、今は感謝の気持ちしかありません。もし、あの時、逃げて辞めていれば、そんな気持ちになることもなかった。そして、その後も大変なことはたくさんありましたが、それを経験

していなければ、今の自分はいなかったです。もしかすると教職にもついていなかったかもしれません。

今までの人生で、多くの人と出会い、仲間となりました。もしかしたら本当に一人で頑張れる人もいるのかもしれませんが、でも、多くの方がそうではないと思います。自分が助ける側になっていることに気づかないかもしれません。ただ遊ぶだけ、ただ話をしているだけ、それだけで救われることはたくさんあります。今も多くの人に支えられ、助けられ、日々の生活を送っています。そして、自分も誰かの助けになればいいなと思っています。

これまでの「仲間」もそうですが、これからも、多くの人と出会い、笑い、泣き、助けられ、そして助ける、そんな「人」との関係を築いてください。みんなも社会に出ると辛いことがたくさんあると思いますが、「仲間」と支え合って、それを乗り越え、豊かな人生を歩んでいってくださるといいなと思います。

## 写真コンテスト結果発表

冬季休業中に提出してもらった写真コンテストの結果を発表します。たくさんの応募ありがとうございました。それぞれのお正月の様子が垣間見えるものから、個性的なものまで、様々なものがありました。その中でも日の出の写真が1番多かったです。今回は前回よりも選ぶのに難航しましたが、以下の賞を決定しました。



初日の出賞  
日・海・空全て  
バグッくしい!!



神戸の街賞  
神戸の自慢!!



おみくじ賞  
3人とも吉い



センス賞  
素敵なお一枚



正月の遊び賞  
我が家ではあります!



シルエット賞  
日向のシルエット  
バグッくしいです。



フレンド賞  
とくく楽しもう!!



伝統賞  
すげえ!



高3賞  
罌カッ一枚!!



神秘的賞  
炎バカッくいい!!

## 学年レク『46Festival』が終了

1月17日(水)3時間目から6時間目の4時間を使い、学年レクを行いました。

4時間目はクイズ大会、3年間の思い出す問題や、先生方からの問題など最後のレクらしい問題を考えました。クラス対抗で点数を競い、1組、2組が同点で1位でした。Zoomを使って開催したので、教室の状況はあまりわかりませんが、楽しんでもらえたかな？

5、6時間目は有志の発表を行いました。11組の生徒がダンスや歌などを披露してくれました。土曜日にも練習にきていたチームもあり、それまでの努力によってそれぞれが素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。学年団でもバンドを結成し、「リンドリンド」を演奏しました。実は文化祭の有志で出場しようかという動きもありましたが、文化祭の有志発表者が多くいるということで断念をしていたので、ここで、最後にみんなに披露ができてよかったです。行事に熱い学年の先生方の本気は伝わりましたか？

そして、最後には全員でRADWINPSの『正解』を歌いました。みんなが入学した頃は、まだコロナ禍で、声を出すこと、それこそ歌うことが制限されていました。1年生の文化祭も、そのために動画コンテストになりました。そして、制限がなくなった今、みんながこういった形で歌うことに対して、少し抵抗がある人も多くなっているのではないかと心配をしていました。それでも、最後にみんなで歌って、みんなで作り上げたという実感を持ってほしいという想いで企画をしました。そんな時に、生徒からピアノを弾いてくれるという声が上がりました。時間がない中で、手をあげてくれ、努力をしてくれたこと、本当に嬉しかったですし、感謝の気持ちでいっぱいです。そして迎えた本番では、ピアノ演奏が始まる時には、それまでの不安はもうなかったです。ステージから見るみんなの姿は、「歌える」って思わせてくれるものだったからです。そして、素晴らしい歌声を聴かせてくれました。円で歌うみんなの中に入り、みんなの顔を動画で撮影しながら、「卒業なんやな」って本当に実感しました。46回生の力、そして歌のすばらしさを改めて感じる時間となりました。卒業式の日にもみんなの歌声を、みんなの心を、そこにいるすべての人に届けてください。それが、人の心を動かすものになります。2月29日はそういう1日になってほしいなと思っています。

46Festivalは、行事に熱い学年としての締めくくりとして、そして最後の学年行事として、46回生らしく盛り上がった1日となったと思います。この3年間の行事で得た経験や達成感をこれからは活かしていきましょう。それが願いです。

